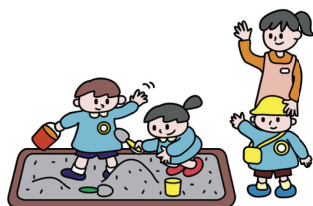


溶連菌感染症

溶連菌感染症は、幼児や学童の間で秋から春先にかけてはやりやすい細菌性の感染症です。

風邪に似た症状ですが、のどの痛みがとても強く、食べ物がのどを通らないような特徴的な痛みがあります。

適切な抗生物質を使用すると数日で良くなります。さらに合併症の予防のために、抗生物質を10日ほど使う必要があります。



溶連菌感染症の検査

溶連菌感染症を診断する根拠になるのが、のどについている細菌の検査です。

のどの粘膜を綿棒でぬぐって調べます。もっとも正確な検査は培養して細菌の種類をしらべるものです。しかし、結果がでるまで数日かかるという欠点があり、あまり利用されていません。

溶連菌の検査には、もう一つ簡便な方法があります。溶連菌がもっている蛋白質を、ある試薬で検査する特別な方法です。迅速（じんそく）検査といって、数分で結果が分かります。

その場ですぐ診断し、治療しなくてはいけない小児科外来では、大いに役立っている検査です。



溶連菌という細菌がのどに感染して、のどの痛み、熱、体や手足の発疹などが出ます。舌はイチゴのようになります。うつる病気です。

治療

のどの検査で溶連菌がいることがはっきりしたら、抗菌薬を10～14日間飲みます。1日か2日で熱が下がり、のどの痛みも消えます。でも途中で薬をやめてしまうと再発します。

薬をきちんと飲まないとしんじょう熱をおこすことがありますから、指示どおりに最後まで飲むことが大切です。



こんなときはもう一度診察を

- ① 2日以上たっても熱が下がらないとき
- ② のどの痛みが強く水分をあまり飲まないとき
- ③ 1～2週間後に、元気がない、顔がむくんでいる、血尿（おしっこが赤い）がある、などの症状が出てきたとき

保育所・学校

抗菌薬を飲みはじめてから24時間以上たっていれば、他の子にはうつりません。主治医の許可をもらってから登園（登校）してください。

家庭で気をつけること

- ① 家族にもうつる：きょうだいや両親に同じような症状があれば、受診して、のどの検査を受けてください。
- ② 食べ物：のどの痛いときは、熱いものや辛いもの、すっぱいものは避けましょう。
- ③ 入浴：熱がなければかまいません。

処方された抗菌薬を飲み終わったあとに、症状の確認と尿検査を行いますので、再受診して下さい。この時点でそれまでの経過や尿検査に異常がなければ、その後に急性腎炎などの合併症を起こす可能性は少ないので、診療は終了になります。

しかし、抗菌薬をきちんと内服できなかったなど、経過が思わしくない場合は、後日尿検査などが必要になることがあります。

また溶連菌に対する免疫が十分にできないため、何度もかかる方もいます。そのたびに治療が必要です。